

サムコ (コード 6387)

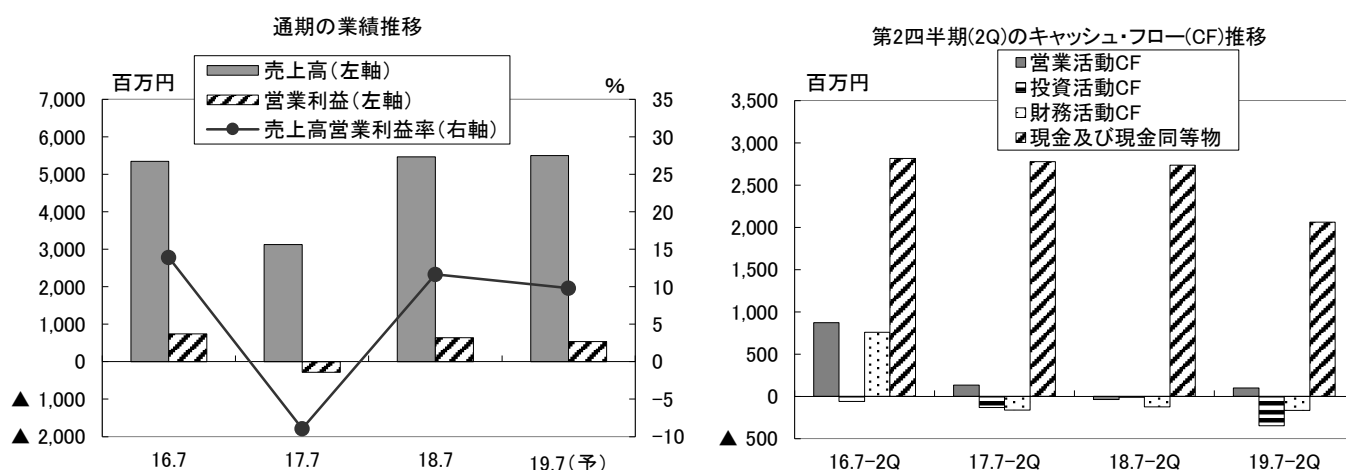
◆各決算期の第2四半期業績推移(非連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.7	2,923	472	35.5	0.0	872	▲61	759	2,817
17.7	1,719	▲84	▲1.7	0.0	133	▲130	▲162	2,779
18.7	2,053	77	6.1	0.0	▲36	▲11	▲123	2,738
19.7	2,772	281	23.0	0.0	101	▲349	▲165	2,063

◆通期業績推移(非連結) (19.7 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.7	5,345	744	44.2	20.0	1,179	▲187	757	2,893
17.7	3,124	▲279	▲33.0	15.0	295	▲148	▲164	2,918
18.7	5,466	638	50.8	20.0	▲223	23	▲228	2,486
19.7予	5,500	540	43.6	20.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



19年7月期第2四半期の業績概況…19年7月期の第2四半期累計期間(18年8月～19年1月)の業績は、売上高27億7,200万円(前年同期比35.0%増)、営業利益2億8,100万円(同263.8%増)、経常利益2億6,200万円(同262.0%増)、四半期純利益1億8,500万円(同279.2%増)となった。18年9月時点での会社側予想値(売上高28億円、営業利益3億4,000万円、経常利益3億3,500万円、四半期純利益2億2,500万円)は下回ったものの、前年同期比で売上高が急増したプラス効果は大きく、営業利益、経常利益、四半期純利益が大幅増となった。

18年7月期に引き続き、オプトエレクトロニクス分野の通信用レーザーや、電子部品分野の高周波デバイス、パワーデバイス、MEMS(微小電気機械素子)、各種センサーなど向け製造装置の受注活動、新製品の拡販に注力。その結果、売上高は大幅に伸びたものの、スマートフォン市場の需要低迷及び米中貿易摩擦の影響による中国経済の減速により、同社の主要取引先である電子部品メーカーの設備投資意欲が一時的に低下したことから、受注が伸び悩んだ。当四半期の受注高は26億800万円(前年同期比32.5%減)、当四半期末の受注残高も18億5,800万円(前年同期末比34.7%減)にそれぞれ減少した。

売上高については、国内・輸出に分けると、国内が18億5,100万円(前年同期比35.2%増)、輸出が9億2,100万円(同34.6%増)となった。また、品目別売上高(百万円未満切り捨て)

では、CVD装置が2億4,000万円（前年同期比27.5%減）、エッチング装置が17億5,500万円（同45.6%増）、洗浄装置が3億1,100万円（同50.2%増）、その他が4億6,400万円（同50.2%増）となった。主な用途別売上高（百万円未満切り捨て）では、オプトエレクトロニクス分野が9億6,900万円（同29.3%増）、電子部品分野が8億1,100万円（同78.5%増）、シリコン分野が2億1,100万円（同4.4%増）、その他分野が1億7,200万円（同124.4%増）、部品・メンテナンスが4億6,400万円（同50.2%増）に拡大した一方、実装・表面処理分野が1億4,200万円（同45.2%減）に落ち込んだ。

当四半期のキャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当四半期末の現金及び現金同等物残高は20億6,300万円（前年同期末比24.7%減）となった。営業活動CFでは、税引前四半期純利益が2億6,200万円（前年同期比263.9%増）、売上債権の増加額が2,400万円（同96.9%減）、たな卸資産の増加額が5,400万円（同77.6%減）、仕入債務の増加額が1億4,300万円（同47.4%減）、法人税等の支払額が1億3,400万円（前年同期は還付額が9,100万円）となったことなどにより、営業活動による収入が1億100万円（同3,600万円の支出）となった。投資活動CFでは、定期預金の預入及び払戻による差引収支が3億4,600万円の支出（前年同期比4,842.9%増）、有形固定資産の取得による支出が1,400万円（同40.0%増）となったことなどにより、投資活動による支出は3億4,900万円（同3,072.7%増）となった。財務活動CFでは、配当金の支払額が1億6,000万円（同33.3%増）となったことなどにより、財務活動による支出は1億6,500万円（同34.1%増）となった。

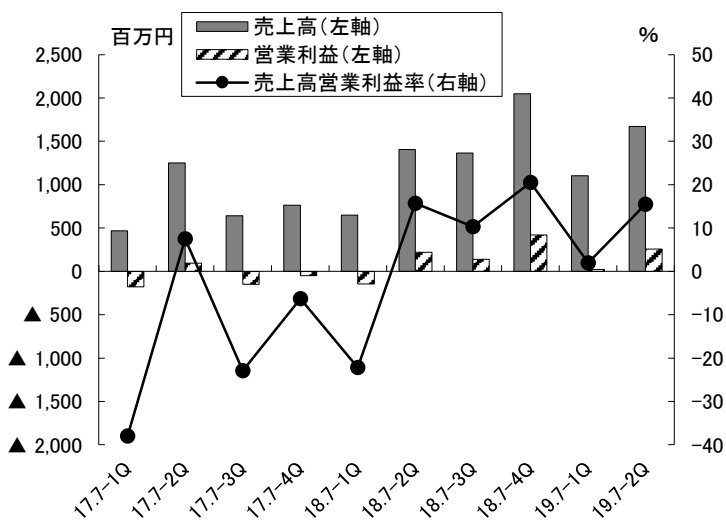
なお、第2四半期のみ（18年11月～19年1月）の業績は、売上高16億7,100万円

（前年同期比19.0%増）、営業利益2億5,900万円（同17.2%増）、経常利益2億2,300万円（同11.5%増）、四半期純利益1億5,900万円（同13.6%増）となっている。

**19年7月期の業績見通し**…19年7月期の通期業績については、売上高55億円（前期比0.6%増）、営業利益5億4,000万円（同15.4%減）、経常利益5億3,000万円（同17.5%減）、当期純利益3億5,000万円（同14.2%減）の見通し。受注が伸び悩んでいる現状から、18年9月時点での会社側発表値（売上高64億円、営業利益9億6,000万円、経常利益9億5,000万円、当期純利益6億4,000万円）から減額修正された。1株当たりの年間配当金は20円の予定。

なお、通期見通しから第2四半期累計期間実績を差し引いて算出した、第3～4四半期累計期間（19年2～7月）の業績見通しは、売上高27億2,800万円（前年同期比20.1%減）、営業利益2億5,900万円（同53.8%減）、経常利益2億6,800万円（同53.0%減）、四半期純利益1億6,500万円（同54.0%減）となっている。

四半期(Q)ごとの業績推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。